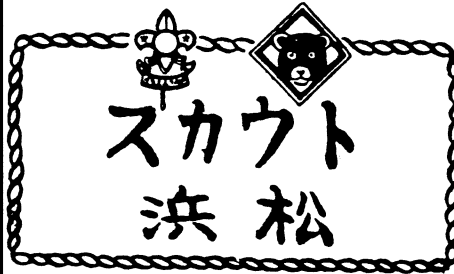


標 語

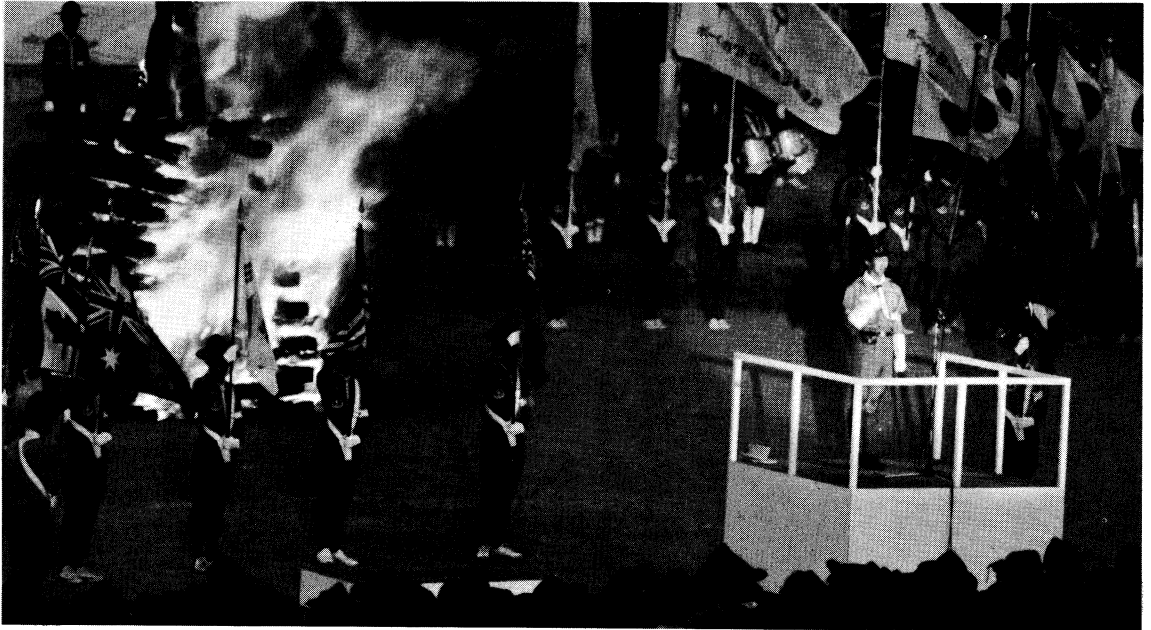
そなえよつねに
日 日 の 善 行



「大自然、を愛し理解しよう」

「スカウトの自然研究はこの世界
が美と神秘に満ちていることを、
より深く知るためにするのであり
神が君たちに、そういう世界を楽
しむために贈ってくださったのだ」

—B—P—



浜松第一団 団委員長 松下 欣司



一年間で最も行事の多い夏
休みも終り、各団の行事や第
9回日本ジャンボリーも無事
成功裡に大会の幕を閉じ各団
の指導者には大変な御協力を
賜りましたことを厚く御礼申
上げます。団発足以来伝統
と誘りのある第一団の委員長

を仰せつかった時は毎日が心配の連続でした。しかし
一年間皆様の励ましと御叱声により今日あることを心
より感謝しております。

最近の激動する社会状況の中で子供達が何を社会に
求めているだろうか？子供達自身実践可能な範囲を広
げることにより、公益優先をモットーとする、スカウ
ト精神に満足しようと心がけていると思う。私は先般
あることで教師と相談の中で先生と子供の発言のどち
らを信用するか、二者択一を迫られたとき私は迷わず
に子供を信用すると言ったものです。

自らを信ずることのできない者に他人を信ずること

は到底できません。法林寺におけるfesti=フェスティ
ヤサカは団役員父母指導者全員の参加により親睦を計
り規律を守り自分自身を厳しく鍛える事を重点に参加
者全員の発言を戴き、第一団に入っていて良かったと
他の団の人に第一団の旗の下での誇りと幸せを自慢の
できるものにして参りたいと思います。今後共公私に亘
り御協力をお願いいたします。私は常々思うことです
が夜店で買ってきた金魚は僅かな日数で死んでしまう
何故だろうか？大きな池の中で何の規則も制約も何の
不自由もない儘育てられた金魚を小さな金魚鉢に入れ
られるとすぐ死ぬより他に道はありません。今の社会は
選択する時代で自分を中心に世の中が回転していると
錯覚しております。この時代にこそスカウト精神が必
要です。カブからボーイとその実践段階に相違こそあ
れ精神の一貫したもので今の社会に欠く事のできない
必要条件です。スカウトの輪を広げ世界状況の厳しい
現在私達の灯した小さな火が遼原の火となり世界に連
なる大きな火の輪となり燃えさかることを期待します。
今後共全員で団発展の為に御協力をお願い致します。

地区大会に想う

地区委員長 内田 時世



S S 61年度地区大会のご挨拶
を申しあげます。

ご来賓の皆様にはご多忙の
ところを、わざわざ今日の大
会のためご出席をいただきま
して有り難うございました。

栗原市長さんを始として市
関係の皆様のご理解によって、

ここ浜松城公園の中央広場において今日の地区大会が
開催されることになりました。今回は久しぶりにゲー
ルスカウトの皆さんと共に大会が開催できることにな
りました。

皆様ご存知の通り、この公園は天皇在位50年を記念
して計画され、在位61年で完成する、すばらしい公園
です。

かつて、ここは、50mプールのあったところ、動物
園のあとは、家康の家臣作佐えもんの屋敷跡（戦場よ
りの愛情こもった短文で有名な）作佐ぎの森、

火の用心、おせん泣かすな、馬肥やせ。

立派な日本庭園があります。その一角には、第2次
世界大戦で犠牲になった、3,549名の被爆者慰霊碑があ
ります。

浜松地区はまだまだ32年の歴史しかありません、し
かし、この流れの中で、多数の君たちの先輩が、成人
スカウトとして活躍しています。

近頃、教育の荒廃が叫ばれています。どうか、勇気
をもって、仲間の先頭に立って、奉仕の実をあげてく
ださい。

人のお世話にならぬよう。 人のお世話をする
よう。そして、むくいを求めぬよう。

後藤新平初代総長のこの、自治三訣の言葉を今一度
味わってください。ビーバーの皆さんは正式に加盟登
録されてから、初めての地区大会だとおもいます。先
輩をのりこえるような、スカウトになってください。
明日のため、今日一日をたのしく元気で頑張りましょ
う。

地区大会に想う

実行委員長 木村 清治



このたびの地区大会に付き
ましては、各委員長さんを始
め各方面の皆さんの心暖まる
協力により準備期間が少な
かったにもかかわらず、まずま
ずの出来に終わる事が出来ま
した事心から御礼申し上げます。更にリーダー、団委員の皆
さんには特に制約の多い場所だけに何かとやりにくい
点があった事と思います。にもかかわらず各コーナ
ーは、団委員・リーダーの協力のもとに朝早くから設
営に入り、スムーズに開会式の運びとなり誠に感謝に耐
えませんが、まああの出来と思います。私も不慣れな
ため、講評の時は言わなければならないことをころっ
と忘れてしまい誠に失礼をしました。私個人の感じた
ことは、非常に暑い時だけにかき氷屋は、のきなみ大
盛況でした。これは当然の事と思いますが其の他のコ
ーナーでは、やはり歩いてみよう遠州史跡巡り、これ
には大変大勢のスカウトやお母さん達が汗を流してい
ました。次にやはり自分の手で道具を握り物を造ると
云う事に非常に魅力があるようでした。お母さん達も
子供といっしょにのこざりてごしごしやっていた姿が
印象的でした。印象的と云えば、マレーシアの若い男
女を混えてあの暑い所で一日中ダンスをしていた事、
韓国のコーナーに大変美しい民俗衣裳に合う女性が愛
嬌を振りまいていたこと、いずれにしても各団の
協力によりなんのトラブルもなく事故もなく幕を閉じ
る事が出来、実行委員長として、心から感謝申し上げ
る次第です。



地区大会雑感

浜松6団 中島 繁光

「ひろげようスカウトの輪」をテーマにして、ボーイスカウトガールスカウト浜松地区大会が9月7日浜松城公園で開かれ、ガールスカウト16ヶ団450名、ボーイスカウト22ヶ団1,250名が参加、ゲーム、ウォークラリー、各コーナーを通じて、相互の友好と親睦を深めた。

さて、この大会を含めて、いままでの地区大会をふりかえってみた。大会とは何か。この教育的効果は何か。目的がしっかり設定されたか。企画はどうだったか。計画は充分だったか。準備はどうか。そして、当日楽しくて愉快だったか。

まず第1に「参加」しなければならない。第2に、プログラムとそれへの分担及び役割をもたなければならない。第3には親睦である。集まって、励ましあって競争する。自己の足らない点、まさっている点がわかる。そしておおいに学ぶ。この教育的なねらいが第4である。最後に、スカウティングに対する理解を深め、もっとも大切な熱意—スカウトも成人も—のボルテージを高める効果が第5である。

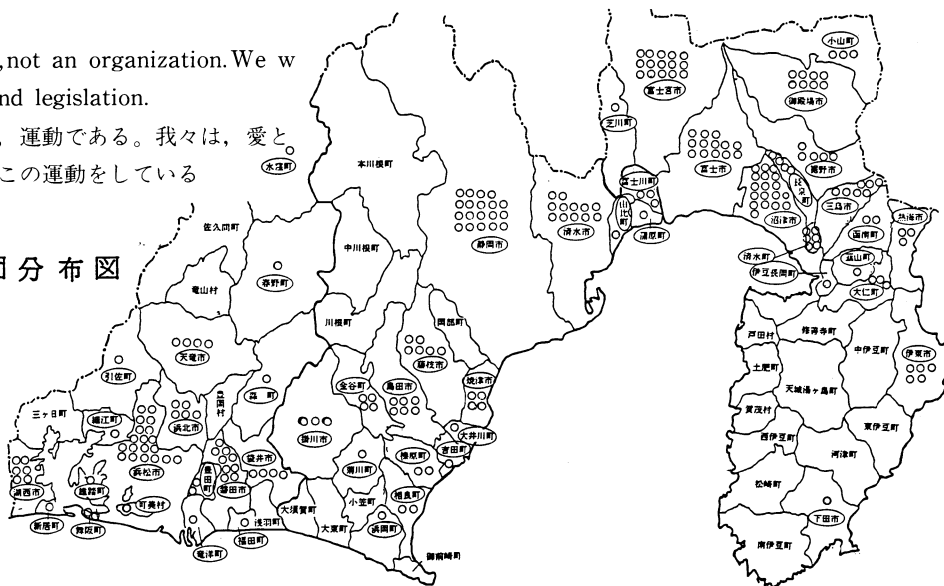
企画し、計画し、実行し、評価する。このプロジェクト及び、プロジェクトメソッドが充分にいかされたらどうか。そして、もう1つ、地区委員会のシステムが、これに充分に対応できたらどうか。

1人1人のみんなが、自分流に採点して、あらためるべきは、しっかりとあらためよう。よい点はどんどん伸ばそう。スカウティングが、本物になるように、もっともっと頑張ろう。

We are a Movement, not an organization. We work through love and legislation.

我々は、組織でなく、運動である。我々は、愛と「おきて」によってこの運動をしている

市町村別団分布図



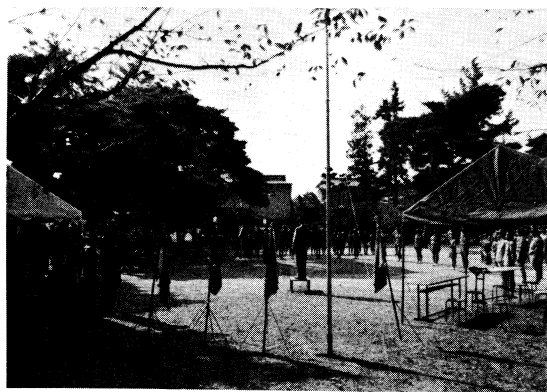
浜松第6団30周年記念式典

浜松第6団

去る10月26日午前9時30分より住吉町、住吉青少年の家で発団30周年記念式典が挙行されました。

尾崎忠次連盟長を初め大勢のお客様をお迎えして、厳粛な中で式典が滞りなく行うことが出来ました。当団関係者一同心から感謝致しております。有難うご座居ました。式典後、会場にて当団自慢のうどん、ジュース、ポップコーンに舌鼓を打ちくつろいでいただきました。

私達浜松6団、皆様よりいただいた、ご指導、ご激励の言葉を胸に益々の発展を目指し前進する所存です。今後共よろしくお願いします。 弥栄



昭和61年10月10日現在
ボーイスカウト静岡県連盟

浜 松 地 区 協 議 会

昭和61年9月4日(木)PM7:00~9:00

浜松市福祉文化会館

地区協議会長 柳本 冬彦

「ちかい」は、守らねばならない。「おきては」は実行されねばならない。

コンセンサスを得て、みんなの力で、………協議

地区委員長 内田 時世

ある書によると、九才頃までの子供に、事の善悪をきめこまかく教え込んでやらないと、子供は、人間として最低限必要なモラルさえ身につけることができない。子供の将来にとって不可欠な条件であるセルフコントロールの力は、九才頃までにつけてやらないと、一生つきにくいと言ってよい………児童期後半、親と指導者に対する適応が、社会への適応に変化し始める。子供が、自律的適応の時代を迎えたことになる。この時代に子供がなさなければならぬ最大の課題は、『適応の内面化』である。世の中のモラルを自分の心のなかにとり入れて、そのモラルに適応することが適応の内面化である………

このようなことについても勉強してほしいと思う。

東小地区委員長 木村 清治

………魅力あるカブ隊と言うことで、カブの野営について多数の意見が寄せられている。地区の皆さんによく検討して頂き統一した見解を出して欲しい、そして、宜しくご指導をお願い致します。

Q. ……ビーバーは、どうする……宮澤氏より

南小地区委員長 奥澤 達司

………小地区制度を見直す時期に来ていると思います。現在のままの小地区制度を継続するとすると、教育規定との兼ね合いもあるかと思いますが、型はどうあっても各団委員長は、地区委員会のメンバーとしての組織作りをする事を提案致します。

西小地区委員長 宮澤 広士

1. 野営場案内書の作製

2. 指導者の確保について

リーダーの処遇や安全確保 ……

リーダーが経済的・精神的に安心して奉仕が出来るような方途について研究を進める。

3. 小地区合同のカブラリー (11月15~16)

若干の経費を必要とするが、其の捻出は？

組織・拡張委員長 石津 宏

61年度の登録(次頁)を見ると、県下で568名の減となっている。今、スカウト拡大(獲得)が最大の課題となっている。スカウト活動の良さを強力にアピールすると同時に、スカウティングが正しく理解されるよう行動する事が大切だと思います。

指導者養成委員長 小山 定雄

定型は済んだ………非定型は未だ。いずれにしても参加者が少ないのが現状である。もっと、参加を願いたい。

進歩委員長 山中 洋一

1. 浜松地区進歩・進級かべかけ表の作製について浜松地区22ヶ団の進歩状況のまとめにより

②進歩委員の連携の強化

②各隊のリーダーへの進歩情報の提供

③地区全般の進歩制度への関心をたかめる

④スカウトの進歩・進級の促進

等をはかる為、今後とも継続して行います。

2. 菊・隼・富士章の取得について

今年度は、全般的に少ない。面接の回数を増やしたらどうだろうか。

地区財政委員長 大木 俊夫

駐車場整理謝金の使途について地区協議会、地区委員会のコンセンサスを得たい。(特別会計へ)

健康・安全委員長 平山 木一

・破傷風予防注射の施行無事終了。感謝。

・救急法講習会への参加をお願いしたい。

太田山野営場委員長 宮澤 広士

本野営場は、非常に優れた野営場であることを再認識し、多数の利用を願いたい。今後の作業として

①道路から上の野営地の開発

②上段の管理棟を細工物作業場として利用したい。

地区コミッショナー 玉木 功一

1. 部間毎のリーダー会は、小地区で行う。

2. 小地区に部間担当を置く。

	東	西	南
(案)	ビーバーカブ担当 富田 北川 川上		
	ボーイ 担当 近藤 鈴木(4) 太田		
	シニア 担当 滝川 野口 片山		
	訓練チーム 担当 中島 神谷 後藤		

3. 地区コミ研究連絡会は二ヵ月に一回行う。

4. 小地区担当コミを今迄通り置く。

5. 小地区で実行し効果が多ければ、63年に小地区を地区とする準備をし、64年に地区とする。

C S担当副コミ 川上 文雄

………両親の求める息子の幸せと、指導者の考える幸せとの間にギャップのないようにせねば………

B S担当副コミ 近藤 孝明

………各自の分担・役割の理解に留まらず、その班・隊等々全員の分担・役割に精通していれば協働態勢がとれ、その組織体が大きく育つと思いますが…少気達の入隊時の瞳の輝きを中断させないためにも浜松地区の皆さん、もう一度考えて下さい。

S S担当副コミ 神谷 恭二

シニアの活動の特徴である『委員会活動』の重要性を再認識してほしいと思います。

組織の拡張・拡大を

このところ、スカウト人口が徐々に減少しつつあります。皆様方の団では、如何でしょうか。

県でも、カブをボーイを増やそうと呼びかけています。その中で、特に、ビーバー隊員を増やそう。ビーバー隊の発足を促進しようと強く呼びかけています。でも、今は、新隊員募集の準備に追われていると思います。そこで、いろいろデモンストレーションをしたり、「ちらし」を配布したりしていることでしょうか。見て楽しいことも大切ですが、入団の問い合わせ先を、ハッキリ・タツプリ記載しておくのも重要なポイントです。親達の気持ちになれば、ごく当たり前ですが……

右のは、富士宮第2団のものです。参考になることが多いと思います。この団では、簡単なBSについてのQ&Aをのせたものも使用しています。

良いアイデアで、スカウトを獲得するよう皆さん頑張らしましょう。

キミもボクたちの仲間に入らないか



野や山で
みんな楽しく
あそぼう！

どんなことを
するの？

ゲーム、歌、てじな
ひみつの手紙づくりから
ピクニックやものを集めたり、おもしろい
ことがいっぱいあります。
それができたらパッチがもらえます。その
ほかに自分のとくいなことにがんばると、
あじあしのパッチももらえます。
でも、友だちとおもしろく遊ぶには、わが
ままや、自分からはやめられないかなが
よしと助け合い、カフ隊のさだめで、こ
れをまもるのです。

いつやるの？

集まりは、土曜日が、日曜日の2
時間ぐらいです。きんじょで遊ん
だり、テレビを見ているかわりに
その友だちといっしょに、楽しく
すごします。
春や秋には、ピクニック、夏の日
には、とまりがけで出かけるこ
とがあるでしょう。
こんな楽しい集まりで、君のパッ
ジがふえていくのです。

★ビーバー
小1年～小2年
★カブスカウト
小2年2学期～小5年まで
★ボーイスカウト
小5年2学期～中3年まで
★シニアスカウト
中3年2学期～高3年まで

募集しています
◎いつでも入れます

入団の問い合わせ先

ボーイスカウト富士宮第2団

団委員長 渡辺正彦 窓 26-5592
副団委員長 石川弘行 窓 27-8247
組織拡張委員 星野第一 窓 27-6659
課長 内藤勝義 窓 26-5298

入団申込書

申込書
住所
氏名
保護者名

登 録 現 況 表

昭和61年9月10日 現在

地 区	団 数		隊 数					班 数				指 導 者 数					ス カ ウ ト 数					61.3.31		前年比	地 区										
	団数	団委	C	S	B	S	S	R	S	計	B	S	R	S	計	C	S	B	S	S	R	S	計			合 計	合 計								
熱 海	3	19			2	3				7						17	12	3					32	39	39	13		91	142	167	0.85	熱 海			
伊 東	6	69	1		6	6	6			19					6	40	14	13					73	9	106	120	50		285	427	456	0.94	伊 東		
三 島	7	67			5	6	3	3		17	2	1	3			50	18	5	5				78		138	125	27	32	322	467	480	0.97	三 島		
田 方	7	57	1	3	7	1			12		3	1	4	4		35	25	6					70	14	94	128	22	4	262	389	499	0.78	田 方		
駿 東	10	91	6	10	9	3			28	1	5	3	9	19	75	28	6						128	53	173	176	64	10	476	695	657	1.06	駿 東		
沼 津	18	145	3	14	16	6	4	43			6	2	8	8	105	70	15	5	203	23	249	370	115	48	805	1,153	1262	0.91	沼 津						
裾 野	5	43			4	4	3	2	13		1		1			32	16	8	4				60		105	107	26	20	258	361	373	0.97	裾 野		
御殿場 小	11	106	2	10	11	7			30		3	1	4	5	71	44	10		130	25	236	265	83	2	611			847	893	0.95	御殿場 小				
富 士	13	127	2	11	14	8	2	37	1	3	3	7	5	110	63	23	7	208	9	264	347	129	53	802	1,137	1,145	0.99	富 士							
富士宮	16	189	1	18	16	8	3	46	1	7	2	10	2	181	80	18	8	289	8	353	437	157	69	1024	1,502	1,732	0.87	富士宮							
庵 原	5	49	2	4	6	1	1	14			3		3	1	32	14	2	2	51	10	86	135	34	14	279	379	382	0.99	庵 原						
清 水	12	149	5	14	13	5	1	38	1	4		5	15	106	37	8		166	67	321	319	85	8	800	1,115	1,160	0.96	清 水							
静 岡	19	158	2	20	19	7	2	50	8	2	10	3	177	62	19	4	265	20	338	381	105	39	883	1,306	1,424	0.92	静 岡								
志 太	11	117	4	12	11	7	5	39			2	3	5	10	99	36	16	11	172	43	209	245	108	77	682	971	946	1.03	志 太						
島 田	15	152	7	16	15	11	9	58			3	1	4	35	115	41	22	13	226	98	279	292	125	111	905	1,283	1,242	1.03	島 田						
掛 川	4	44			4	4		8								33	9							42	70	81		151	237	312	0.76	掛 川			
袋 井	5	65			5	5	4	1	15		1		1			37	12	6	1	56				117	108	55	14	294	415	454	0.91	袋 井			
磐 田	13	143	6	13	13	4	1	37			3	3	6	12	110	48	9	2	181	79	298	315	73	29	794	1,118	1,081	1.03	磐 田						
浜 松	22	259	7	21	23	16	7	74			4	6	10	24	203	83	26	7	343	93	454	625	207	126	1505	2,107	2,106	1.00	浜 松						
浜 北	5	68	5	6	7	3		21			2	2	4	28	55	24	7		114	60	164	152	50	8	434	616	534	1.15	浜 北						
浜 名	4	34		4	4	1		9							27	13	8		48		116	80	12		208	290	273	1.06	浜 名						
湖 西	6	49	2	5	4	1	2	14			1		1	5	29	11	2	3	50	31	97	54	15	19	226	325	274	1.19	湖 西						
北 遠	6	27	1	5	2	2	1	12	1	1		2	1	48	14	5		68	6	108	62	29	9	214	309	334	0.93	北 遠							
浜岡町	1	17	1	1				2						2	10				12	17	12				29	58	0		新 浜岡町						
県 連																																			県 連
合 計	224	2244	58	213	219	109	44	643	5	62	30	99	185	1797	774	237	72	3065	665	4426	4973	1584	692	12340	17,649	18,217	0.97	合 計							

ボーイスカウト静岡県連盟

9 N Jに参加して

静岡31隊隊長 近藤 孝明

4年ごとに開催される、日本ジャンボリー、この宮城南蔵王は今年で2回目です。バスで会場に到着、31隊は北海道担当の第1サブキャンプ場です。この1 S Cは第7回の御殿場でもお世話になりました。この1 S Cは今年新しく開拓した処で、アリーナから歩いて30分の処、ジャンボリー会場一番奥そして浜松の各隊はこの1 S Cの一番奥でした。今年度のテーマ、自然と創造のテーマに一番ふさわしいサイトではなかったかと思います。又このサイトの狭いこと、そしてけい斜の強いこと考えていてもサイトは出来ません。昼食をすませ、全員玉の汗を流しサイトの設営、出来たときは夕方でした。夕食をすませ夜空を眺めれば浜松ではとても眺められない、満天の星空です。きれいだなあとしばらく眺めていてもあきない星空です。夕やみにつつまれ開会式の始まり、国旗、ジャンボリー旗、班旗群の多さ、そして大営火に映え、音と光にスカウト達は感動したことでしょう。スカウト達は友情ゲームで友達を作り、選択プログラムに挑戦し汗を流しました。

スカウト達が楽しみにしていたジャンボリー大集会の初まる頃雨が降りだし大集会は流れてしまいました。

この大集会に隊旗がどこかにいってしまいました。さあ大変、持っていったスカウトは青くなり、あちらこちら捜してもみあたりません、届出を出しても、ぜんぜん反応なしです。その間にも雨はやまず、その雨足の強い事、しかもここらで云うドシャ降りの雨、この雨量で道は川、サイトの測溝はあふれんばかり、徹夜で見廻る朝4時頃サイトに水が入りそう、リーダーの皆さんに起きてもらい水が入りそうな処を修復し、朝食、他県のサイトでは避難した隊があるとか、浜松隊は全員意気軒昂でした。しかしながらスカウト達にとって一番楽しい2日間を雨で流してしまい残念でした。雨が上り選択プログラムに再度挑戦、全員がパイオニア賞を獲得出来たことはうれしい事でした。そのうれしいことはもう一つありました。隊旗が出てきだことです。誰かわかりませんが他県のシニアスカウトが、あの大集会、足で踏まれ泥だらけになっていた隊旗を拾い洗濯をしてもってきてくれました。ほんとうに有難うご座居ました。紙面をかりてお礼申し上げます。

閉会式で幕をおろして7日早朝より搬出、バスを待こと3時間、仙台にて七夕を見学無事浜松に帰着しました。スカウト達にとってこの7日間は大変貴重な体

験をしたことだと思います。この体験を活かしすばらしいスカウトになっていくことを願います。

弥栄

9 N Jに参加して

34隊隊長 神谷 恭二

今日までの準備を思い出しながら……、快晴の朝、バスに乗り次いで蔵王連峰につつまれた、第9回日本ジャンボリー会場に到着しました。静岡第34隊は第1 S Cへ、第1 S Cは北海道連盟が担当です。第1 S Cは中央アリーナから歩いて約30分と遠く、9 N J会場の内でも一番遠く、13 S Cと共にひと山向うと思う程に離れた所でした。1 S C内も今回(9 N J)に合わせて新しく開拓された、キャンプサイトで、9 N Jのテーマ“自然と創造”一空のように広く、蔵王のようになくましく、にびったりのサイトでした。変化に富み、半分は泥でぬかるんだ道を力を合せて、未開発の自然を“大切に”を合い言葉に立木伐採は禁止されてのキャンプサイト造りは思うにまかせず、玉の汗を流し、苦勞しました。楽しい夕食を終えたころより美しい広い明るい夜空が間近に大きく広がって、満天の星が美しい夜でした。開会式を前に、浩宮さまが、1 S Cをご視察され真下に殿下を拝見することができました。殿下は非常におやさしくにこやかに身近な方に感ぜられました。スカウトの持つヨウヨウにも仲間入りされる程でした。夕ぐれ空に9 N J開会式、光と音と人の和で、三万人のスカウト、一万五千人の見学者国旗、ジャンボリー旗、班旗群が大営火に映えて、その雄大さに感動した一時でした。友情ゲームでジャンボリーの始まりです。スカウトは友達を求めて、上へ下へと、走り廻り、成功組、残念組と友情ゲームで先づ友達づくり、選択プロは班参加、協力して一つ一つ挑戦に汗を流すスカウト達でした。ジャンボリー大集会の人員配分も終り、大集会が始まるころより雨がぼつぼつ降り出し、時がたつにつれて雨足も強くなり雨台風のしゅう来で残念ながら大集会は中止、キャンプサイトの点検、整備に一致協力、荒天準備で時間もすぎたが、何せ雨量が多くキャンプサイトのテントの側溝は小川のように水が流れて道は滝の様に流れ、雨で丸一日ジャンボリーも止った。午後には雨も上り会場の整備からジャンボリーもいきをふきかえし、選択プロも挑戦が始まった。挑戦出来なかった選択プロもこの豪雨の中での体験は、出来なかった。いくつかの選択プロと同じ、それ以上であるとの暖かい計らいにより残されたチャンスに出来るかぎりの多くのプロに挑戦

することによりP賞は授与されることとなりました。
会場整備活動で撒営が始まり、SC内は又戦場の様に
人が流れ、雨台風の雨水が、湧き水となって流れこの
水を撒営の洗い水に使い災いの水もこの時ばかりは恵
みの水となりました。長い様で短く感じたジャンポリ
ーも大当火のもと光と音と人、旗の波でさしも広いア
リーナも湧きかえり名残りおいしい“ローソクの火”で
第9回日本ジャンポリーも又逢う日を約束して終りに
なりました。

日本ジャンポリーに参加して

浜松10団 高橋 正樹

第9回日本ジャンポリーに参加して僕は、よかった。
ちょうどいい年にボーイスカウトに入ったと思った。
全体の一部しか参加できないのに、僕達の団は、中学
二年生のほとんどの人が参加できた。

いろいろな事前訓練をして、いざ出発となると、と
ても不安だった。出発した日は、電車の中でねた。だ
けどあまりねむれなかった。

サイトに着いて会場の広さにおどろきました。SC
入口から僕らのテントまで路離があるので荷物を運ぶ
ときにとても疲れました。

雨の日でテントの中まで水が入ってききましたので、
ねぶくろが、びしょびしょになりました。テントの中
に水が入ってきたことは、団キャンプの時に一回あつ
たのであまりあわてませんでした。ジャンポリーの時
には、大雨が降ると聞いていたけどやっぱり降りました。

しかしこのようなついていないこともあったけど全
員がパイオニア賞をとれてよかったです。パイオニア
賞をとるまでには、友情ゲームやサブキャンプトレイ
ルのようにほかのSCまで行かないとスタンプがもら
えないものや火起しや班旗たてのように20分もあれば
終わるようなものもありました。このようなものも合
格してパイオニア賞をもらえてとても、うれしかったです。

ジャンポリーに参加出来た事は、ボーイスカウト活
動の良い思い出になります。

日本ジャンポリー

浜松11団 ライオン班 班長 鶴飼 敏成

ぼくにとって“ジャンポリー”というものは、とても
遠い物だった。まだ、小学校一年の時から、兄につい
てカブというのを見ていたために、ジャンポリーと
いう存在をして、とてもあこがれました。

しかし、そのあこがれにやっとたどりつくことがで
きました。そして、そのあこがれ、も終わってしまい
ました。

でも、簡単に書いているようだけどその五日間は、
とても苦しくそして楽しさもありました。苦しさとい
えば、台風のためテントがしん水したことや、その時
の雨のため、1、2日は、まともなご飯を食べられな
かったこと、そして、やはり、時間に追われることでし
た。

でも、苦しきだけでなく、心にのこったこと、楽し
さも数多くありました。雨のため、中止になってしま
ったジャンポリー大集会もぼくにとっては、心にのこ
る行事でした。それは、ジャンポリー旗がやれたこと
です。せっかくのジャンポリーなので、なにか、一つ
とても心にのこる事をつくりたいと思っていましたが、
それもたつ成でき、とてもよかったです。それに、北
海道の人達との交流パーティーなど、そして、一番、
楽しかったのは、友情ゲームでした。このプログラム
のおかげで、数多くの仲間ができたことでした。など
など、かぞえきれないほどの喜怒哀楽がありました。
しかし、このジャンポリーで、すべてがおわったわけ
ではありません。このジャンポリーを第一歩として、シ
ニアへ行っても、がんばり、外国のジャンポリーなど
に参加し、また、2歩、3歩と進ばしていきたいです。



* 浜松第1団 * ぼくらのスカウティング

キャンプの思い出

浜松第1団 CSくま 平井 雅之 (県居小5年)

ぼくは、このキャンプで1番楽しかったことはきもだめしです。なぜ楽しかったかというそれは、大人の人達が、通り道に何かぶらさげておいて、そのぶらさげてあるのにみとれていたら横からおどろかしたので、すごくおどろきました。それだからきもだめしのおもしろさはこれだなあと思いました。

2番目に楽しかったのは、トーテムポール作りです。絵を書いてそれをほってたのしくするのです。ぼくらの組のと2組のが不動寺のさくらの広場においてもらったのでうれしかったです。また不動寺へ行って、そのトーテムポールがのこっているか見たいです。とても楽しいキャンプでした。



キャンプファイヤーのこと

浜松第1団 CSうさぎ 清水 啓介 (県居小3年)

平口の不動寺でキャンプをしました。2日目の夜にキャンプファイヤーをすることになりました。組しゅう会で練習したげきの「ゲゲゲのき太郎」をするので、できるか心配でした。ぼくは工事屋の親方と目目連の声をやりました。なのであんまりすることはありませ



んでしたが、なるべく大きな声を出してやりました。はじまる時、どきどきしました。せりふはおぼえていたけど、あまりうまくありませんでした。だけど、自分では力いっぱいやったので、くいはのこりませんでした。こんどげきをやる時は、なるべくうまくやれるといいなと思いました。

浦川での思い出

浜松1団 ボーイ隊 山本 欣徳

8月24日ぼくらの1団では浦川でキャンプをした。去年は伊豆に行ったが今年も電車で行くキャンプなので楽しみにしていた。

飯田線の電車の中ではキャンペーンガールと一諸だったのにぎやかであった。浦川駅から歩いて8分位の所にキャンプ場があった。焼肉、弁当、ジュースなど十分あって満足であった。

アユの塩焼きはめずらしく皆んなよろこんで食べた。アユのつかみ取りや西瓜わり、宝さがしも楽しかった。静かな山と川でのキャンプほど楽しいものはない。ぼくは9NJに都合で参加できなかったなのでこの浦川でのキャンプがこの夏一番の思い出となっている。

行きも帰りも電車であったためキャンプが一段と楽しかった。これからもゆっくり電車に乗って遠征しキャンプしたいと思う。



日帰りキャンプの思い出

浜松1団 ボーイ隊 鈴木 教正

浜松1団では浦川へ日帰りキャンプをした、浜松駅から電車に乗って飯田線浦川駅で降り、キャンプ場に入った。電車は団体で300人くらい乗っていた、電車の中も楽しかったが、現地でのバーベキューは肉や野菜が多くさんあって満腹であった。川原でのアユのつかみ取りや、西瓜わり、宝さがしなどとてもよかった。僕はアユを取って小さな子供たちに分けてあげた、これも善行になったと思ったからである。また遊泳もおもしろかった。これは山の上からタイヤにつかまってロープを滑りながら水上に飛び降りる。スリルのある遊びであった。これは何回やってもあきなかった。帰りの電車の中ではジュースやお菓子を売っていたので皆んなお腹がすいていたから買って食べた。これがとてもおいしかったので思い出に残っている。

* 浜松第11団 * ぼくらのスカウティング

キャンプに行つて

BS11 森田 浩直

ぼくはキャンプにいつてよかったことがありました。火のおこし方をおそわりました。たけを半分にしてとめ台を作りたけをりょう方にこすたら火が出ました。ふしぎでした。山へいく前は、いきたくありませんでした。いったらロープウェーにのつてついたら歩きました。すずしく空気がおしかったです。山へいつて絵を書きました。それから赤はんを食べました。とてもおいしかったです。それから帰りました。帰りもロープウェーを乗りました。バスで帰りました。つぎの日にはプールに行きました。プールがあかだらけになっていました。温水プールでおよぎました。およいでいたらつかれたのです。べり台で遊んでいました。すべり台はきもちよかったです。下につめたいプールがあつたのでそこでおよぎました。およいだあとあそんではいつてしまいました。時間になつたのでプールから出てかぎをはめました。バスで帰りました。帰るときになりました。と中休けいです。キャンプにいつておもしろかったです。



団キャンプ

4年 BS11団 橋本 昇

8月26日から28日まで、たてしな高原白林台キャンプ場にきました。一だいのバスでカブスカウト、ボーイスカウトといっしょにきました。山の中のしずかなキャンプ場でした。バンガローには一へや6にんでとまりました。ついでさいしよににゅうじょしきをして、へやのそうじをして、火のおこすくんれんをしました。ぼくは、ごはんのとき、やさいをきったりしました。とてもおいしかったです。つぎのよるごはんをたべてから、キャンプファイヤーをやりました。火の回りであつたりおどったりしました。キャンプファイヤーがおわると、つぎに、バンガローのうらに行き、きもだめしにきました。二人で1組になりくらしいところにあおいものをおきにいきそれをつくえのうえにのせて、つぎの人は、それをとりにいつてもつてかえつてきてとそれをどんどんくりかえすのです。ぼくは、

とりに行くほうでした。となりになる川の音がザーザーいつているのできもちわるくて、ちょっとこわかったです。それもおわり、もうねました。『つぎの日バスでロープウェーの入口までいき、それでロープウェーにのつて、山の上までいきました。ボーイスカウトは、ぼくらが、ロープウェーできた所を歩いてきました。みはらしがとってもよかったです。それでまたロープウェーにのつてかえりました。じゅうてんでとるときがつたんでなつて、おもしろかったです。バスで、かえりへいかいしきをやりそうじをやつてかえりました。とてもおもしろかったです。

キャンプへ行つたこと

BS11団 鈴木 尚徳

8月26日から2はくのキャンプに出かけました。場しよはたてしなです。出発する時、ぼくは、気持ち悪くなつてしまったので、不あんで楽しくありませんでした。でも、がまんをしてバスにのりこみました。バスの中では、楽しくてすぐに気分がよくなりました。それは、たくさんの友だちがいたからです。ロープウェーは、高くてもおもしろかったです。また、おふろのようにあつたかいプールにも入りました。はじめて、7時間もバスにのりましたが、とてもたのしいキャンプでした。来年もまた、いきたいと思いました。

日本ジャンボリーを見学して

BS11団 関 浩太郎

夏休みに、ぼくは、東北の蔵王で行なわれた、日本ジャンボリーの見学たいに参加しました。行く前、ジャンボリーって何だろう、どんなことをするんだろうと、とても楽しみでした。

着いてみると、そこには数えられないくらいたくさんさんのテントがはられていました。外国人もいてびっくりしました。ボーイスカウトのお兄さんたちがほうほうで休むひまもないくらい働いていました。台風が通つた後なので足元がぐちゃぐちゃしていて、すべつてころびそうになりましたが、いろんな所を見てまわりました。でも、ぼくたちが行つたのは大会の最後の方なので、もう片づけをしていて、いろいろ作つてあつた物を全部見ることは出来ませんでした。ちょっと残念でした。閉会式は、ボーイスカウト全員が参加して、楽器のえんそうや花火も打ち上げられて本当にすごかったです。

今度、日本ジャンボリーがあるときは、ぼくも参加してみたいです。

***引佐第2団*ぼくらのスカウティング**

引佐二団 ビーバーのたび

8月30日西から東へと二俣線に乗って一日走りました。すばらしい体験をしてきました。

汽車の乗り降り、車中でのマナー、見学する態度など、低学年なりに上手にできたのも、ビーバー隊の一員であるという自覚がどのスカウトにも芽生えてきているのだなと思いました。

—— 楽しい旅をする中にも、きびしさあり ——

カブ隊、ホーイ隊へと上進していくビーバーの子供達を、スカウト活動を通して、み力のあるボーイ隊へと定着させていくよう、リーダー・育成会員お互いに協力し合う事が大切だと思います。(隊長)

かけ川城での、めいろあそびは、おもしろかったよ

泰宏。勇作。滋

二俣きかんくで、せつめいをきいたり、しつもんできたりして、いろいろわかってよかったよ。

俊和。誠明。哲也。裕厚。

きかん車のえんとつの中、おかまの中にはいってま
っ黒になったよ。

克俊。卓。明。英

き車のまどからながめたけしきはよかった。風がか
おにつよくあたったので //ワイワイワイ//

亮。新策。剛也。太郎。

トンネルがいくつあるか、いっしょうけんめいにかぞえたよ。

命。修平。公亮。訓宏。



緑のはねぼ金

引佐2団カブ隊 安間 康憲

ぼくは、緑のはねのぼ金で、はこをもつやくをしました。はじめは、はずかしくてできなかったけどだんだんになれて来ると、大きな声で言うことができました。

お金を、入れてくれたときばくは、とてもうれしかったです。「どうして入れてくれないのかなあ。」と思いました。

ボーイの人も、ビーバーの人も、みんなで大きな声を出していましたが、ぼくも、頑ばろうと思ったけど少ししかうまく言えませんでした。そして、多くさんのお金が集まりました。とても、うれしかったです。みんなで、力を合わせたから出きたと思いました。これからみんなと、頑ばっていききたいと思います。

ぼくは、今年になってから入たいしました。奥山か

らは一人です。みんなに、いろいろ教えてもらいながら自分の力ですすみたいと思います。



三岳山キャンプ

引佐2団ボーイ隊（引佐南部中年2） 巨島 善道

6月14、15日と近くの三岳山でキャンプをした。ぼくは部活があったので少しおくれていった。7人ぐらいいきていて、もうすぐ夕食という、うまいタイミングにきた。三岳山の坂は、はっきりいって、きつい。つかれる。だから少しシャブシャブのカレーもうまくかんじた。夜は肝だめしをしたが、たいしてこわくなかった。(それより、テントの中から神社が見えるので不気味だった)夜は話がはずみ、みんな、なかなかつかなかった。15日は部活があるのでハイキングに参加できないけど、ゆかいなキャンプでした。



村くしキャンプ

引佐2団ボーイ隊（金指小6年） 中村 真志

8月22日から、8月24日までキャンプを行ないました。ボーイのキャンプは今年がはじめてでした。テントをはったり、ごはんを作ったりしました。うまくは出来なかったけれどいい勉強になりました。村くしの海岸でおよぎましたがしおの流れがきつくて、流されてばかりいました。けれども、おぼれそうになるような、あぶないことはありませんでした。この2泊3日のキャンプは夏休みの思いでとなり、よい勉強になりました。

浜松第4団		団委員長	内田 時世
団委員		吉田 一	
" "		庵原 孝夫	
" "		大林 稔之	
" "		藤谷 弘	
" "		曾我 勝彦	
" "		青山 市郎	
" "		松本 重世	
CS隊長	山本 茂		
" 副長	河合 敦子		
BS隊長	鈴木 実		
" 副長	千葉 聡		
SS隊長	野口 光一		
前号第一〇四号で団委員の吉田一氏がぬけていたので訂正しお詫び致します。			

浜松第4団

* 浜松第26団 * ぼくらのスカウティング

特別寄稿

団運営について

浜松26団 団委員 宮田 今郎

永年スカウト活動をしていると、団運営上で各種の問題解決に苦勞することが多くあります。

苦勞を苦勞とせず、スカウト精神で解決し、より活動の向上を計るのが正しいことであろうが、時としてスカウト精神だけではスムーズに解決できないことがあります。

たまたま仕事の関係で愛知県、千葉県、浜松市と転勤して浜松26団の団委員として4年目を向かえました。お世話になりました各団ではいづれも、発団前後の団運営にあたる機会が多く、発団の準備、発団式のセレモニー、発団頭初の隊活動等の運営面について、先輩各団から大変親切な指導、援助を頂き数多くの貴重な経験をさせて頂きました。

先輩の方々から指導頂いたうちで技能面以外にスカウト活動で一番大切なことは何かというと「ちかいとおきて」の実践にあるとのことであります。

ウッドバッチ研修所でも「ちかいとおきて」の実践がスカウト活動の原点であると指導頂きましたが、この実践を難かしいと考えるか、一步一步努力して実践するか。永い間には大きな差になると思います。

スカウト活動はスカウト中心にあるべきなのは当然ですが、時として大人が中心となるケースもあり得ます。

団運営上の問題発生時がこのケースです。

隊長やリーダーと団委員の対立、団委員どうしの意見のくい違い、育成団体と団委員の団運営方針の考え方の違い、父兄とリーダーとの意見等のトラブル、クレーム、対立があります。

団という1つの組織がかかえる環境の変化、状況の変化に継続的に適応していくためには、団はそれぞれの変化に合わせて方向性や組織体を主体的に変革していく柔軟性が必要かと思ひます。

このプロセスでは、スカウト活動の原点に立ちかえることが基本かつ重要であるとともに、現在の知識をすて、新たな知識を取得することも必要であります。

物ごとの対立というのは、活動の進歩、発展、拡大につながる原点ではないかと思ひます。

大きくは、米との対立、国会での与野党の対立、教育

現場での対立、最近話題になっている地域住民とある組織との対立等がありますがこれらの対立の解決を方向づけるのが人間の社会生活の1つであります。具体的には話し合い——人間の見識さが対立を解く根本ではないでしょうか。

浜松26団におきましてもイデオロギー上の問題でスカウト活動を中止せざるを得ないような対立がありまして、一時は団の存続問題となりましたが、関係者の方の大変な努力とご苦勞により、一応の解決をみて、現在はほぼ正常な団運営、隊の活動も可能となりました。多くの方々にご心配をかけまして申し訳ないことと深く反省をしております。

大人達の問題でスカウト活動に支障がある場合一般に夏のキャンプの時期にはスカウトにどう説明し、どう対処するのか、大変な苦勞を経験しました。

この時期に考えましたことは、スカウト活動の原点は何かということでありまして。

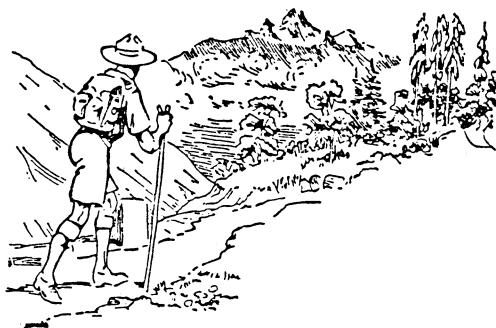
「ちかいとおきて」の実践が日頃から正しく実施されているならば、解決の時間も方法もより簡単ではなかったかと思ひます。

伝統のある団であれば、又スカウト精神とは何かが充分理解され実践されている団では、問題はほとんどないでしょうが、人間社会、組織である以上時として基本、原点からはなれたところで問題が発生することはあり得ることです。

団の運営について最近感じましたところをまとめますと、

「そなえよつねに」

という言葉、意味と重要さをもう一度ふまえ努力を続けたいと思ひます。



SENIOR DOOR



第14回オーストラリア ジャンボリーに参加して（続）

浜松11団 鶴飼 一博

その後28日、29日はキャンベラとメルボルンの観光を行った。観光よりも思い出深いものは、なんといってもプロペラ機にのったことだろうと思う。ジェットコースターよりも怖いと思う。あの飛行は、のった者しかわからない恐怖感がある。ところでキャンベラは政治だけの都市であるから、僕にとっては見がいのなかった町に感じた。メルボルンは、古い町並がつづきなんともロマンチックに感じた。

そして30日ついにシドニーから南に約70Kのところにあるカタラクト・スカウト・ベークにキャンプ・インした。バスでキャンプサイトまでいくにみんな、見慣れぬ東洋人がのっている僕らのバスを奇妙そうに見、手を振ってくれた。バスからおりると、「時計をかえてくれ」とか「ワッペンを交換しよう」などと何十人者小供が集まってきた。これにはみんなとても驚いた。日本人がこんなに人気者とはだれもが予想していなかったことだからだ。オーストラリアのスカウト達が荷物をはこぶのを手伝ってくれてサイトにいった。そして昼食は用意されていたものをもらい、ゲートやポール等の作成に2日間とりかかった。僕はすべてが初めてで班長等の指示にしたがう他なかったが、また1つ技術をおぼえた。その間も日本サイトを訪れるオーストラリアのスカウトの数はやむことはなかった。日本とちがって驚いたことは、日が8時半まででていることだった。そのため、日本でのキャンプとはちがい行動できる時間が長くてとてもよかった。（半面、長くあると思ってだらける面もあるが、）

そして31日夜、開会式が始められた。何十mもの大スクリーンでステージを写し、後ろの方までわかるようにしてあったり、常にミュージックはたえることなくかけられ、司会はスカウト達により、日本とちがって外国のはでさがうかがわれた。

ジャンボリーが始まり、当番制で料理などをやることになった。料理は英語のメニューがよめず、はじめはとてもまごついた。料理は、すべて肉類（ステーキ、ハム、ソーセージ等）と野菜とジュース、パン又はコーンフレークと簡素で味気ないものばかりの毎日だった。この時ばかりは、ご飯のなつかしさにすべての者

がかられた。

なお31日の夜はだれもが起きていて、1日になるやヤカン等を鳴らし「ハッピー・ニュー・イヤー」の連発だった。

ジャンボリー期間中は、アクティビティとスワップ・ミールとで時間がすべていった。アクティビティでは、自転車トライアル（モトクロス）ローラースケート（バスでローラースケート場までいき半日遊んだ）ウォータースライド（水が流れている滑り台（80mはあろうかほどの）に頭からすべる）チャレンジバレー（どろんこの中をすすみながら、幾つかの関門をクリアする）などいろいろなものを体験した。スワップ・ミールではオーストラリアのそれぞれの隊からもてなされ、一諸に会話をしながら食事をしてきた。又夜のコンサートや、お国の曲芸などで毎夜、かん声がスカウトパークいっぱいに響きわたっていた。その中で思ったがオーストラリアの子らは素直なおや、つまらなかったりするとすぐブーイングを発していた。しかし、歌などになると立ちあがり頭の上で手拍子とるほどの熱狂ぶりをみせてくれた。

その他、自由時間では常に訪ずれてくるスワッパーとのワッペンの交換で時間がすぎた。僕は日の丸と3つのオーストラリアのワッペンとかえたりで悪徳ぶりをみせた。（しかし、向こうの方が日の丸ほしさに3つ、4つとだしてくるのである。）

ジャンボリー中はいきあうどの子も「Good day」といってあいさつしてくれた。とても友好的だったのを一番覚えている。

そして閉会式を終え、スカウトパークをあとにし、再びシドニーに向かった。シドニーでは班単位でみやげを買いに歩いたりした。夜は、お世話になったホームステイ家族とお別れパーティーを23時までやったのを鮮明に覚えている。このシドニーでの2日でタクシーにお金をごまかされたりもした。帰国するのが嫌になったほどオーストラリアに愛着心を抱いた。

シドニー空港での別れの時はとても悲しく現実（勉強しなければならぬこと）に戻るのが嫌で心で泣いてしまった。

僕にとってのこの19日間の海外での旅は、知らぬことの多い僕に様々な思い出と経験、挑戦を与えてくれて非常によかったものだと思う。また機会があれば見知らぬ世界へいきたいものと思う。

SENIOR DOOR

激流に挑む お薦めカヌー

浜松6団シニア隊隊長 寺本 昇

シニアドアーファンの皆さん、今回は私達が昨年の夏に行ったカヌーによる気田川下りについてご紹介したいと思います。題して『絶対お薦めカヌー気田川下り情報』

午前10時45分、予定より遅れること1時間15分、私達はあわただしく秋葉山下社まえをスタートした。ゴムボートが先導しスカウトの乗った4艇のカヌーが続く。初めゆったりとしていた流れも川幅が狭くなるにつれ白波をたてる。下に岩が有るためだ、私達は吸い込まれるように流されて行く。心臓のドキドキだけが聞こえる。流れは右に左に蛇行しながらすすむ。そのたびに雑木の林から崖崩れの跡そして杉林へと次々と様子が変わる。自然の中で生きているのではない、生かされているのだという気がしてくる。川に挑戦しているんじゃない、自然はほんのちょっとの間その手のひらに俺達をのせて遊ばせてくれているのだという気がしてくる。初めは緊張ぎみだったスカウトたちも歓声をあげながら流れて行く。既にゴムボートの先に出ている。流れは直線になり一気に私達を運ぶ。軽快な気分ひたっているその時前方で何やら叫ぶ。ブッシュが左岸から川の上に乗っておいかわさっている。しかも、右側が浅く左側は深い、左に流される。身の軽いカヌーはうまくかわしたらしい1艇2艇と向うに見える。ゴムボートはそうは行かないパドルングしてもだめだ、吸い込まれて行く、ガガガ岩に衝突してバランスを失う「しまった」ボートは大きく回りだした、バシバシバシバシ頭上を小枝が飛んで行く、体をうずめてしのぐしのぐ。

息も付かぬうちに再び難所だ。直線だった流れはその先で岩山にぶつかり、盛り上がり直角に右に押し出される。1・2・3と木の葉のようなカヌーがすりぬけて行く、4艇めが水圧に負けて沈んだ。オレンジ色のヘルメットが見え隠れする。「無事にいってくれ」心で叫ぶ。100mほど流されたが無事に接岸。「大丈夫かー」「死ぬかと思ったわー」。

午前11時45分中島神社付近で休憩、昼食をとる。午後1時15分再び流れにのる。

行程の半ばを過ぎたところから釣人の姿が見えるようになった。左右にかわしながら進む。静かに、慎重にパドルングする。

栗島上付近、またしても難所だ、水中の所々から二抱えもあるような岩がにょきにょきと露出している。それらは等間隔にならび、しかもみな異様に背が高い。亡霊のようだ、気味が悪い。川の流れをいくつにも分断している。流れは岩の手前で沈み込み岩にぶつかっ

ってはせり上がり、左右に分かれ押し出される。カヌーが挑む。流れに引きずられてバウが沈み込んだと思うと、次の瞬間カヌー自らの浮力ではね上がる。バコーン・バコーン、何度も何度も繰り返される。

亡霊の谷をぬけると一気に視界が開けてくる。川幅は広く、水深も浅い。さざなみさえたない。鏡の上を滑るようだ。カヌーは川幅いっぱい広がって進む。空は青く、高い。静寂が続く。スカウト達は今日の健闘を自ら讃え、充実感に浸っているようだ。ほうふつとさせる一時、自然は優しくもある。

頭上に赤い吊り橋。この橋を過ぎればあと一息だ。やがて川幅も狭まり、流れも激しくなる。スカウト達の技術も今日一日で随分あがったようだ、心配は要らない。そのまま一気に下りゴールへ。午後3時05分気田川橋下に無事到着。

全行程約12km。この日沈したスカウトのべ3人。すりきずを負ったスカウト一人。パドル二本損傷。カヌー一艇にひびが入った。しかしそれに替えられないものを私達は得たような気がします。勇気と、このうえない満足感と、自然のパワーそして優しさ。皆さんもぜひチャレンジしてみたいかがですか。

Information

カヌーでの川下りには最低3回の練習が必要だと思われま。カヌーの練習に良いと思われるポイントを紹介しましょう。

☆天竜相津マリーナ TEL05392-3-0544

船明ダム湖東国道152号線ぞいに位置し、静水なので初めてカヌーに乗るのに適している。初めはマリーナ内で練習し、慣れてきたら水路を通して船明ダム湖に行くこともできる。使用料はカヌー持ち込みの場合1艇1日500円、賃貸は1艇1時間以内500円、以後30分超過ごとに200円。雨天の時は使用禁止になる場合があるので要注意。

☆阿多古川

阿多古中学付近から天竜川との合流点付近まで、合流点より200mほど上流の橋桁を目印にするとよい。中学より川上では岩が露出していて危険。雨天でも水は濁らず、水量も一定している。但しシーズン中はアユ釣の人が多い。

☆気田川

天候によって水量が変わる。雨天では少し濁る。アユ釣は他の川より遅れぎみ、とも釣は同じだが、えさ釣は8月1日解禁である。

浜松地区進歩かべかけ表 その2

浜松地区進歩委員長 山 中 洋 一

昭和61年 9 月 30 日現在の浜松地区各団の各隊の進歩状況の調査結果が別表の通り、集計が出来ましたので報告します。

6 月 30 日現在の調査結果と比べると、C S 隊は 3 名減、B S 隊では 87 名減、S S 隊は 76 名の増、合計 14 名減の 1,255 名です。

ビーバースカウトについては、1 年生 27 名、2 年生 29 名の合計 56 名で、6 月 30 日現在と比較して 1 名増です。ビーバースカウトについては末報告団が 3 ケ団ありますので、実数は更に多くなります。次回はより正確な報告が出来るよう、各団の一層の御協力をお願いします。

昭和61年度 浜松地区スカウト進歩・進級一覧表

浜松地区進歩委員会

昭和61年 9 月 30 日現在

太字は各隊の比率を示す

区分 団号	C										S										B										S										S										総合計																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	小 2 年		小 3 年		小 4 年		小 5 年		合計	小 6 年		中 1 年		中 2 年		中 3 年		合計	中 3 年		高 1 年		高 2 年		高 3 年		合計	総合計																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす		りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす		りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす			りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす	りす

地区のうごき

7月21日(月) 第10回ヒルモント派遣
 8月9日(土)
 7月28日(月) 組織拡張委員会(法林寺)
 7月31日(木) 第9回日本ジャンボリー(南蔵王)
 8月8日(金) 東小地区委員会(松江会館)
 8月10日(日) ヨット講習会Ⅲ(寸座マリーナ)
 " 地区大会委員会(法林寺)
 8月11日(月) 地区名誉会議(法林寺)
 8月12日(火) 地区コミ会議(法林寺)
 8月14日(木) 県第15回アドベンチャーキャンプ
 8月17日(日) (県西部)
 8月15日(金) BSリーダー会(法林寺)
 8月17日(日) 南小地区委員会(若林会館)
 8月19日(火) 地区大会委員会(法林寺)
 " 地区面接・進歩委員会(法林寺)
 8月20日(水) ビーバー・CSリーダー会(南部公民館)
 " 財政委員会(法林寺)
 8月21日(木) 地区委員会(法林寺)
 8月23日(土) ヨット講習会Ⅳ(寸座マリーナ)
 24日(日)
 8月25日(月) 野営行事委員会(法林寺)
 " 9NJ反省会(コンコルド浜松)
 8月26日(火) 地区大会委員会(法林寺)
 8月28日(木) SSリーダー会(青年婦人会館)
 8月29日(金) アマチュア無線クラブ委員会(法林寺)
 8月31日(日) ヨット補講(寸座マリーナ)
 9月2日(火) 地区コミ会議(法林寺)
 9月4日(木) 地区協議会(社会福祉会館)
 9月5日(金) 東小地区委員会(松江会館)
 9月7日(日) 地区大会(浜松城公園)
 9月12日(金) ビーバー・CSリーダー会(浜松市天文台)
 9月12日(金) WB研修所SS13期(太田山野営場)
 15日(月)
 9月17日(水) 西小地区委員会(12団団ルーム)
 " 楽器研修会(法林寺)
 9月18日(木) 地区委員会(法林寺)
 9月19日(金) BSリーダー会(法林寺)
 9月20日(土) 地区大会反省会(法林寺)
 9月25日(木) SSリーダー会(青年婦人会館)
 " 南小地区委員会(若林会館)
 9月30日(火) 太田山野営場管理運営委員会(法林寺)
 10月3日(火) 東地区委員会(松江会館)
 10月4日(土) 地区コミ会議(法林寺)

10月5日(日) ロープワーク研修会(天竜公民館)
 10月8日(水) 小地区リーダー会(東 曳馬公民館)
 (南 若林会館)
 (西 北部公民館)
 10月14日(火) 地区コミ会議(法林寺)
 10月15日(水) 楽器研修会(法林寺)
 " 西小地区委員会(12団団ルーム)
 10月16日(木) 地区委員会(法林寺)
 10月18日(土) 第29回J.O.T.A.(青少年の家)
 10月19日(日)
 10月21日(火) 地区面接・進歩委員会(法林寺)
 10月23日(木) 南小地区委員会(若林会館)

これからの予定

11月2日(日) こどもフェスティバル(佐鳴湖周辺)
 11月8日(土) 第8回救急法講習会(若林会館)
 9日(日)
 11月9日(日) 東小地区運動会(与進小グランド)
 " 市音楽祭奉仕(四ツ池陸上競技上)
 11月22日(土) 団委員長特修所第10期(静岡)
 24日(月)
 11月23日(日) SSリーダー特別研修会(中央アルプス)
 24日(月)
 11月30日(日) ビーバープログラム説明会(曳馬公民館)
 " 西小地区新入隊員募集説明会
 (青少年の家)
 12月14日(日) トリック研修会(南部公民館)
 1月8日(木) 登録事務説明会(法林寺)
 1月24日(土) 第9回救急法講習会
 25日(日)
 2月1日(日) 歌研集会
 2月8日(日) 指導者講習会
 3月1日(日) 登録事務受付
 3月21日(土) SS室内集会
 22日(日)
 3月21日(土) 班長訓練野営
 23日(月)

発行所 第105号
 日本ボーイスカウト浜松地区事務所
 〒430 浜松市海老塚2-9-16
 編集発行責任者 石津 宏
 印刷所 三富印刷(株)
 昭和61年10月25日発行